

## 広域的な葉いもち発生の抑制技術

イネいもち病は、稲作にとって最も重要な病害であり、広域で発生すると大きな被害となります。

このため、共同育苗センターで田植え前の苗に薬剤処理することにより、広域的にいもち病を防除することができます。この技術が定着することで次のことが実現できます。

- 1) 共同育苗センターでいもち病防除をすることで、農家が田植え時にいもち病対策をする必要がなく、防除コストの低減、田植え作業の省力化が図られます。
- 2) 共同育苗センターで薬剤処理した苗を広い地域に田植えすることで、地域全体でいもち病の発生を抑えることができます。
- 3) 播種後の早い時期に薬剤が処理されるので、育苗期間中の苗にいもち病が感染する心配がなくなります。

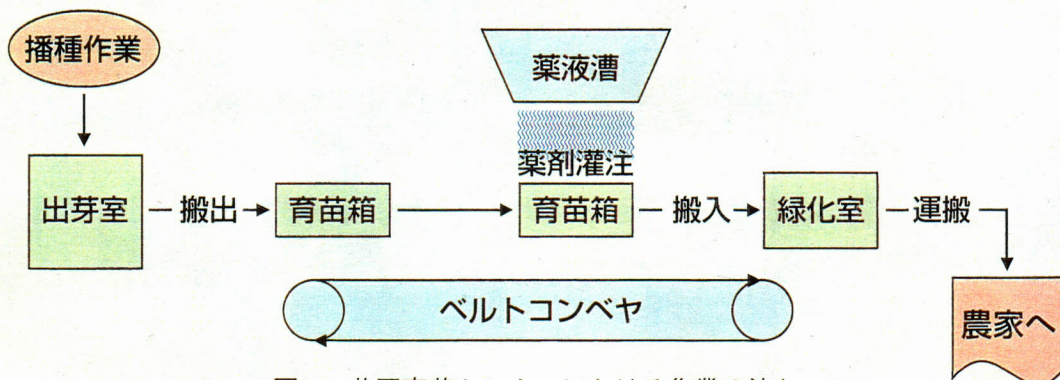


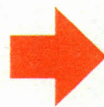
図1. 共同育苗センターにおける作業の流れ

## トルコギキョウの苗低温貯蔵による秋出し栽培



低温貯蔵中の苗

- 通常に育苗した苗を7月上旬(本葉2対葉時)から冷蔵庫で貯蔵します(10℃)。
- 貯蔵中は蛍光灯で、照度1,000ルクス、24時間連続の照明を行います。



ほ場における開花状況

- 苗は20~30日ほど貯蔵し、7月下旬~8月上旬に定植します。
- 加温および電照を行うことにより、10~11月に花を切ることが可能となります。